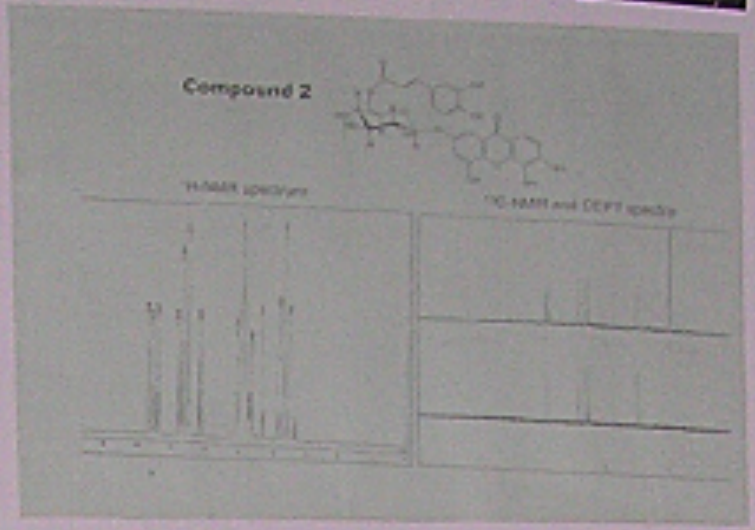
Chemical Constituents of Banmara

Nirmala Jamarkattel[1], Hari Prasad Devkota[1], Kazuo Masuda[2], Shoji Yahara[3], Purusotam Basnet[1]

[1]The School of Pharmaceutical and Biomedical Sciences, Pokhara University, P.O. Box 427, Pokhara, NEPAL
[2]Department of Phytochemistry, Showa Pharmaceutical University, Machida, Tokyo, JAPAN
[3]Graduate School of Pharmaceutical Sciences, Kumamoto University, 5-1 Oe-Honmachi, Kumamoto, JAPAN

Introduction

Family	Asteraceae
Scientific Name	*Eupatorium adenophorum* Sprengel (Syn. *E. glandulosum* Kunth)
Local Name	Banmara (Banmasa), Kalijhar
Plant description	This plant is 1-1.5 m tall, diffused and often decumbent herb with opposite, petioled toothed leaf with white small flower.
Uses	locally as a natural fertilizer.
Medicinal Uses	leaf juice is applied for the treatment of cuts, wounds and root juice is used for the treatment of fever.

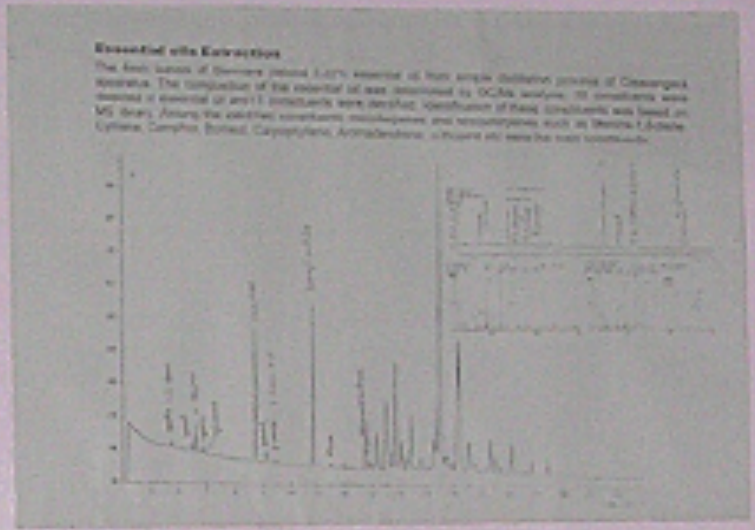


How was research conceived?

Banmara is a fast growing plant, therefore it destroys the cultivated and wild plants rapidly. Traditionally, it has been used as antibacterial and antiinflammatory drugs. In order to develop the evidence based medicines it is necessary to study its chemical constituents. In addition to this, Banmara contains high content of essential oils, therefore, it can be a good source of essential oils.

Objective of the research

To identify the chemical constituents including essential oil content in Banmara.



朝日新聞2003年10月

くらしこれが知りたい

薬草の効能

「日常の食材で楽しんで」

漢方薬や料理に使われる薬用植物。野や庭先に生え、身近なだけに安易に用いられることもあるが、最近では薬用植物を使った健康食品の被害も多い。簡単な使い方や注意点を聞いた。（明梁　麻子）

「いいにおいでしょう。お茶や浴用に使えます」

熊本市大江本町の熊本大薬学部で開かれた薬用植物の勉強会。矢原正治薬用植物園長が園内のレモングラスを手に取った。同園にはアロエやホップ、ステビアなど約400種の薬用植物が植えられている。

矢原園長によると、薬用植物とは、体に有効な何らかの成分を持ち、病気や健康維持のために用いることができる植物のこと。日本の野生の植物約4500～5千種のうち約1割が薬用植物という。

主なものの使い方を聞いた。整腸剤として使われるゲンノショウコは濃く煎じて温めて飲むと下痢止めに、お茶のように薄く出して冷やして飲むと便秘解消に効果があるという。

蚊にかまれた時のかゆみ止めにはヤブガラシ。根についた泥を落としてもみ、根皮のぬるぬるした部分を患部の外側から内側に向かってつけるといいという。

注意も必要だ。

①副作用

薬用植物の中には作用が強いものもあり、多量に接種すると呕吐や湿疹、頭痛などの副作用が出る場合もある。

矢原園長は「今年の夏、ダイエット目的にアマメシバの粉末を多量に飲んだ人が気管支炎になる被害が出た。普通、食用しない量を多量に粉末で摂取したことが原因」と注意を促す。

②外国の健康食品

表示されている摂取量が、腸管の長さの違う日本人には合わないこともあるという。最初から多量に飲まず、違和感があった場合はすぐに使用を中止した方がいい。

③毒草と間違えない

コバイケイソウ（毒草）と利尿作用のあるギボウシは同じ場所に生息することもあり、間違えやすいという。

矢原園長は「薬草を安易に健康食品でとるのではなく、日常の食事の中でスパイスや食材として楽しんでほしい」と勧めている。

毎日新聞（地方版）2012年4月

4月8日（日）27（如月ひろし）（第3種郵便物認可）

薬用資源エコフロンティアセンター長の矢原正治・熊本大准教授（62）

植物通じより良い生活を

会いたい 聞きたい

赤酒に入れる薬草袋「屠蘇酸」を配る催しを昨年末、熊本城で取材した際、薬用資源エコフロンティアセンター（熊本市中央区大江本町）の存在を知った。以来、センター長の矢原正治・熊本大准教授（62）から季節の「花だより」がメールで送られてくる。都市部にこんなに花があるセンターってどんな所？　花々に目ごろの疲れも癒やしてもらおうと訪ねた。【結城かほる】

――センターはどんな所ですか

◆熊本大薬学部の薬用植物園でした。学生の教育のため、さまざまな薬用植物を実際に見せようと作られた薬学部付属施設です。構内の7000平方メートルほどに約1000種の植物を育てています。「日本薬局方」という医薬品の規準書に載っている140種ほどの薬草のうち7割ほどがあります。

――今はどんな植物がありますか

◆南は赤道近くの諸外国、北は北海道やモンゴルの植物も栽培しています。「植物多様性保全拠点園」として、ヒゴタイなど阿蘇の固有種や希少植物も育てています。植物を薬にするのだから、採るだけでなく育てなければと、環境保護にも関心が向くようになりました。

――役割が多いんですね

◆センターの人員が変わっても継続できることが、長い目で見て切だと考えています。

――花だよりの発信など、学生以外への啓発にも熱心ですね

◆他県にならい、毎月第1土曜に薬用植物の観察会を開いていて、今年秋で100回目を迎えます。年配の薬用植物がありますか

◆ネギ、ショウガなどを「薬味」と言いますね。「食用」に対して、菌の繁殖を防いだり、食欲を増したり消化をよくするなどの機能があるものは「薬用」です。リンドウやキキョウの根も漢方で使われますし、今の季節なら山桜の皮は生薬「桜皮」として、せき止め液に使われますよ。

――外国との共同研究にも取り組んでいるそうですが

◆今はベトナムやネパール、スーダンなど各地の植物で新薬の開発につながる物質がないか研究をしています。以前は先進国は、材料を持ち帰り自国だけで研究しましたが、一緒に取り組めば成功した時に共に利益を得ることができます。そうした姿勢が今後は大切だと思います。

財産になります。一番多い時期は1800種の植物がありましたが一時半分まで減り、再びここまで回復しました。種子さえあれば遺伝子は保存できるが、実際に発芽し生きた種子を受け継ぐことが大切だと考えています。

プロフィル　岡山市出身。1983年に熊本大に着任し、2003年から薬用植物園の園長に。同園は2010年4月からエコフロンティアセンターとなり熊本大薬学部内にある。熊本市電味噌天神電停から徒歩1分。

方から、「お母さんが薬草をお茶にしていたので学んでみたい」という若い方まで来ます。啓発を通じて植物の魅力を伝え、皆さんの生活がよりよい方向になればと思います。

――身近なものにも